

「かぼちやのつるが」 学習記録

① 教材文

かぼちやのつるが 原田 直友

かぼちやのつるが  
はい上がり  
はい上がり  
葉をひろげ  
葉をひろげ  
はい上がり  
葉をひろげ  
細い先は  
竹をしっかりとぎって  
屋根の上に  
はい上がり  
短くなった竹の上に  
はいあがり  
小さなその先たんは  
いっせいに  
赤子のような手を開いて  
ああ 今  
空をつかもうとしている。

② 私の読み

かぼちやのつるが

・かぼちやのつるが(どうする) 動き・展開を生み出す

かぼちやのつるが  
はい上がり

・はい上がる…はってあがる。苦しい状態を切り抜けある地位に達する。

・はう…手足を地面につけて進む。動物が地面などに体をすりつけてるようになって進む  
つる草などが、ある面にそってのびてゆく。

赤んぼうのイメージ。たくましい生命力のイメージ  
「はい上がり」の繰り返しによってどこまでもどこまでもものびようとするたくましい生命力をイメージさせる。不屈の意志。

・「葉をひろげ」の繰り返しは、自由奔放さ。健やかさ・旺盛な生命力のイメージ。

1本のつるでなく、あちらからもこちらからもはいあがり、伸び上がるつるがうかぶ。

葉をひろげ

細い先は

・(つるの)細い先。まだ押さない。か弱い。

竹をしっかりとぎって

それが竹をしっかりとぎ。ちょうど赤ちやんがつかまり立ちするような感じ。

屋根の上に

・屋根の上までも。

はい上がり

短くなった竹の上に

・竹の上の方までまきついて、後がない。

はいあがり

竹の先までまきついて、それでもまだ上へのびようとする。

小さなその先たんは

いっせいに

どの竹の先からも

赤子のような手を開いて

小さな若葉

ああ 今

感動・おそれ・の溜め息

空をつかもうとしている。

なんというどん欲なまでの生命力。おそろしさすら感じる。

### ③展開の構想

◎読んでいて感じたことを出してください。

◎読んでいてどんな景色がうかんできますか。

◎どんなのかぼちやのつるが浮かんできますか。

「はい上がり、はい上がり」と繰り返してあるとどんな感じがしますか。

「葉を広げ、葉をひろげ」と繰り返してあるとどんな感じがしますか。

◎つるは、1本だけ見えているのでしょうか。なあちこち何本ものつるが見えているのでしょうか。

「細い先は竹をしっかりとぎって」で、どんな様子が浮かぶ

「赤子のような手を開いて」とはどういう様子を言っているのだろう。

◎「ああ」で誰がいつてるの。（作者）どんな思いをこめていつているのだろうか。

驚きか。

◎どうして題は「かぼちやのつる」でなくて、「かぼちやのつるが」になっているのでしょうか。

「かぼちやのつる」としたらどうでしょう。「どっちの題がいいですか。」

### ④授業記録

（わからない言葉をざっと確認）

C せんたんって

T さきつぼのこと。

T 赤子てわかる？

C 赤ちゃん

T 赤ちゃんね。「赤ちゃんのような手を開いて」ね。

C じゃ、いっぺん、声をそろえて読んでみましょうか。

C （読み出すが、声ばかりはりあげて、イメージない読み方をするので、途中でやめさせる。）

T やっぱり自分のリズムで読んでもらいましょう。

C 立って。2回読んだらすわりましょう。

C 読む

T この前、「春の歌」の時、とつてもいい朗読ができたね

最初、有香に読んでもらおう。

勝仁 読みたい。

有香 読む（一文ずつ、ていねいに読む）

T はい、ていねいに読めたね。

C （次の読み手を口々に言っている）

T じゃ、次は、洋志

洋志 （読む）

T 朝子がさつそく落書きしながら聞いているけど、そうじゃなくて、頭に絵を描くつもりで聞いて。今度は、政義

政義（切れずに、勢いのある読み）

T ああ、やつと詩の絵がうかぶような朗読が出てきましたね。今の政義くんので、ちよつとつるの動きが見えてきたような感じやね。

勝仁 （がんばった読み）

C 次は美由紀ちゃん！

T ちよつと、今、何回かよんでもらって先生わからんところがあるから聞くよ。

ここの「細い先は」て、何の先ですか。

C つるの先。

T 伸びてゆく、このつるの「細い先」

C うん

T そうすると、ここに「つるの」とは書いてないけど、「つるの細い先は、竹をしつかりにぎって」ということやね。

じゃ、「小さなその先たんは」というのは、

C つるの細い先のこと。

勝仁 全然違う。はっぱの先。

C ちがうわ。

T はっぱの先ですか。はっぱもついたるわな。でも、その先たんは、というのは、つるの先やね。その先たんは、どうするって書いたる？

C いっせいに赤子のような手を

T 「赤子のような手」て何ですか。

C 葉やんか。

T 赤ちゃんのはっぱやな。

はっぱを開いて、ああ今、空をつかもうとしている。

こういう意味やね。

はい、じゃ、今政義君や勝仁君ぐらいから、少しこのかぼちやのつるの絵が浮かぶような朗読になってきましたから、もういっぺん自分で、こんどは、そういうつもりで読んでください。

C 読み（声にはりが出てくる。しかし、イメージはまだ弱い）

政義（手を上げる）

T 政義君。何ですか。

政義 なんか、「はいあがり」とか、「葉を広げ」のところだな、つるがどんどん上がっていく。ほんで葉がいっぱい広がっていく。

T つるがどんどん上がっていく。ほう。

智将 空をめざしてだんだん上がっていく。

・洋志はまだ読みの弱い子だが、この子なりにリズムのある読みになっている。

このあたり、みんな朗読したくてしかたがない感じ。

T ほう。空をめざしてぐんぐんのびていく。政義君は、はっぱがどんどん広がっていく。そんな景色が浮かんでくるじゃ、こんどはだれかに読んでもらうけど、今、さっそくね、政義君や智将君がちよつと言い出したように、この詩からどんな景色が浮かんでくるか、今度読んでもらった後で聞くから、自分の頭でかぼちやのつるを浮かべて下さい。どんなつるがうかんでくるかね。

はい、だれか。

紗織 美由紀ちゃん。

T じゃ、和樹君。みんなは、目をつぶって、このかぼちやのつるを浮かべてごらん。

和樹 読む

勝仁 急いでやる。

T じゃ、今ので浮かんできたものを悟司君から順番に出してもらおう。

悟司 芽が出てきてな、だんだん大きいなる。

哲也 ……

優子 あの、一つの文章で、だんだん大きくなっていく。

政義 成長している。

智将 何か、力強い感じがする。竹をしっかりとぎって

T なんていわったの。ただ成長しているだけじゃなくて、力強い感じがするって。

政義 「竹をしっかりとぎって」のところ、力強い。

T 「竹をしっかりとぎって」のところ、このつるは、ひよろひよろのつるじゃなくて、力強い感じがする。

大裕 だんだんつるが太くなっている。

T だんだん太くなっている。ほう。

じゃ、今、どんどん伸びているだとか、力強いだとか、くきがどんどん太くなっているだとか、そんなふうに言うてますね。それは、この詩のどんなどころから、そんな感じがつよくなるのかなあ、て自分で考えながら読んでごらん。

C (読む)

T じゃ、この文章からこんな感じがする、というふうに出して下さい。

C (三人だけ挙手)

T そんなんじやだめ。もう一度読み直しなさい。自分の考えをもたなきやだめ。

C (読む)

T じゃ、美由紀さん。

美由紀 「竹をしっかりとぎって」のところ、力強く、ぐんぐん伸びていく。

C いっしょ。

和幸 ぼくも、「竹をしっかりとぎって」のところ、力強い。

龍法 「いっせいに」のところで、力強い。

C ほこもある。

T 龍法君は「いっせいに」というところで力強さを感じたというのね。そういうふうを感じた人ある。あつたら出して

・もう一人ぐらい読ませてもよかった。

・一文ごとに成長のさまが見えるという読み。聞き落としている。

・その逆の読みもできる。「細く弱いからしっかりと握っている」とも。

政義 なんかぐんぐんぐんぐんのびっていつてる。

直也 勢いよくぐんぐんのびていつてる。

T 勢いがある感じがする。

勝仁 直也くんのようにしている。ぐんぐん、勢い良く、いつせいにな、のびていつている。

T はい、明代さん。

明代 空をつかもうとしている、のところで、今にも空に届きそうに、力強い。

政義 空をつかもうとしているのところで、なんか、空を目標にして、力いっぱいのびている。

T 目標にして？「空までのびよう」てめざしてる。

宣彦 空を目標にして力強くのびていつてる。

なつ希 竹の一番上までいつて、「自分はえらい」と思えるように。

T 他のやつよりももっともつとのびようという感じね。

大裕 ぼくも政義君と似ていつて、竹をにぎってもつと上まで行いつて、竹の高さをぬかす。

政義 はいあがり、というところで、ぐんぐん力強い。

——ここでチャイム——第1時終わり——

T では、公美

公美 赤子のような手を開いつて、というところで、ぽつんぽつんと小さいのが、だんだん中ぐらいにないつていつて、大きくないつて、だんだん大きくないつていつてる。

政義 「ああ今」のところで、もうすぐ空をつかもうとしていつる。

美由紀 短くないつた竹の上に、というところで、初めは、高かつたのに、もう、低くないつている。

T 何が

C 竹が。

のびたで、低うないつたん。

T うん。最初はうんと高いところにあいつたのに、のびていつたら、低くないつてそれぐらい。のびた。

朝子 はいあがり、はいあがり、葉を広げ、葉を広げ、のところは、そのかぼちやの芽がいつせいに大きく、がんばつて大きくなろうとしていつる。

C 近い

政義 ぐんぐん伸びていつて、もっと葉を広げ、もっと葉を広げと

T ぐんぐん、もっともつと

勝仁 めちゃくちゃのびていくん。

T めちゃくちゃ。：：おとなしい感じがしないの。

宏 めちゃくちゃといわんと、いつしよぐらいでのびていく  
T はい、今、朝子がいつたことだね。みんなの頭には、1本のつるがうかんでいますか。あつちにもこつちにもつるがのびていつるのがうかびますか。

C (両方のイメージあり)

T 朝子は、どういつうの。

朝子 私は、一つのところから、どこの芽もなんか、どこの

はっばも、上にあるはっばも下にあるはっばも、もつともつとのびていつている。

T ああ、朝子は、一つのところから、どんどん葉やつるを広げているのをうかべたのね。

大裕 しんけんのにびている。

しんけんのにびたいという気持ち。

T すごいことだね。どの言葉からそんなこと思うの。

大裕 葉を広げ、のどこと、はいあがり、のどこと。

T わかる？大裕は、のんきじゃなくて、どしんけんになつてのびようとしている、というんだ。

哲也 なんかな、これしか考えてない。

智将 屋根の上を目標にしている、こんどは、竹の先を目標にして、最後は、空を目標にして、そのことしか考えずに、のびていつている。

直也 ちゃう。最初は、竹の上までいくのが目標で、それから、屋根の上が目標で、で空が最後。

T 一生懸命、上にのびることばかり考えている。

なつ希 上にのびることを考えながら、初めは、竹のどこまでよちよちのびていつて、空に近付くにつれて、ずんずんずんずん伸びていく。

優子 細い先は、小さいけれど、はいあがり、のところはどんどん太いかぼちやの木になっていくみたい。

大裕 わかった。初めはな、ちっちゃくて、あとから、どんどん太くのびていつている。

T 初めは、細くてちっちゃなつるが、だんだんのびていくうちに、太くたくましくなつていつている、というんやね。直也 竹をしつかりにぎつて、のところはな、つるが竹のところをぎゆうつとにぎつてな、つぶれるほどにぎつて、ささえみたいにして、どんだんのびていつている。

和樹 もう、竹をしつかりにぎつてな落ちるほど長いつるになつてな。

T もう、離れたらおちてしまうほど、高い所まできた。

政義 「空をつかもうとしている」のところで、なんか、

竹とかをぎゆうつともたな、落ちてしまう。

宣彦 一生はなれへん、というほど、ぎゆうつと握っている。

宏 せっかく登つてきたのに、落ちたらまたのぼらなあかん哲也 みんなをびつくりさせようと思つて。

T みんなをびつくりさせるぐらい大きくなろうつてか。

政義 世界一のかぼちやになろうと思つて

T じゃ、ここで、また、読んでもらおうか。

龍法（読む）

直也 あんな、はいあがり、はいあがり、葉を広げ葉を広げのところな、最後に葉を広げ、はいあがり、と書いたんやん。あんな、ほれのまとめと思う。

T どういうこと？

直也 はいあがりを2回言うのは、つかれるさかいにな、まとめて言うてやるの。

T だんだんつかれてきて、ああえら、やつとこさはいあが、という感じ？…

・一心に、わきめもふらず、という読み。

初めは2回ずつの繰り返しで書かれていたのが、後は1回ずつになつていくことへの考え。

じゃ、みんなに聞くけど、「はいあがり、はいあがり」と  
2回繰り返し返して、また繰り返し繰り返し出てきますね。ど  
んな感じがしますか。

C ぐんぐん伸びている感じ  
祐子 ……

T じゃ、読んで下さい。繰り返しがみんなにはどんな感じ  
として伝わってくるか。

T 祐子さん、今、自分で読んでみてどうだった。

祐子 なんか、下を見ないで、上をずっと見て、もうちよっ  
ともうちよつと言いながら、もうすぐ、もうすぐと、空  
見ている感じがする。

哲也 なんか、すずしそう。

和樹 なんか、はいあがり、葉を広げ、て順番ずつにいつて  
る。

T 一つずつ動きが見えている。

有香 なんか、「はいあがり」というところで、間に目標の  
言葉が書いたるから、その屋根の上にははいあがり、と書い  
たって、それから、また空を目標にして、はいあがり、て書  
いたる。

紗織 あんな、だいぶん上まできたさかいな、下見るのがこ  
わい。

大裕、葉を広げ、の所で、大きいはっぱをいっばいさかせて  
いる。

政義 空をつかもうとしている、というところで、なんか、  
どしんけんに考えている。

T つかもうとしているのは、どんなはっぱ。赤子のような  
ちっちゃいのがつかもうとしているんですね。

そこに政義くんは、どしんけんさを感じるんだね・

優子 初めから、最後の文章まで、どしんけんにどんどん  
んどん、休まずに大きくなっている。

T いいですね。最初から最後まで休まずに伸び続けている  
政義 どんどんどしんけんになっていつてる。

なつ希 一日でどれだけ伸びるかということも考えるかもし  
れないけれど、つるが、じぶんでも、どんどん大きくなり  
たい。

明代 空をつかもうとしているで、もしここで落ちたら今ま  
でしてきたことがむだになるから、空にむかって集中し  
てのびていつている。

朝子 明代ちゃんのに似てるんだけど、なんか、後ろを見て  
いると気が弱くなってしまうから、前へ前へぐんぐんぐん  
ぐんいくにつれて、前ばっかり見て。

T じゃ先生から聞きます。

「ああ、今」の「ああ」ってこれ、だれが言ってるの。

勝仁 原田直友

T 原田さんやね。原田さんが、「ああ」って言ってる、そ  
の中にどんな気持ちがあるかっていうんでしょう。  
それを見て「ああ」って。ためいきでしょうか。なんで  
しょうか。

C 感動している。

葉でなく。つるの先たんだった。私の  
勘違い。

美由紀 びっくりして、わあって感動している。

有香 なんか、気持ち良さそうに見ている。

和樹 かぼちやのつるやのに、よくのびるなあ、と思ってる  
明代 かぼちやのつるもがんばっているんやなあ、とおもっ  
てる。

T つるも。…ひよつとすると、原田さんも、「ぼくも

負けずにがんばろう」と思っているのかもしれないね。

哲也 植えたかいがあった。

T ああ、そうか。哲也くんは、このかぼちやを原田さんが  
育てていると考えてるんやね。

政義 大きくなってくれと思っただら、願いがかなった。

なつ希 かぼちやのつるは、原田さんより細く小さく生まれ  
てきたのに、自分より先に育ってくるのですごいなあと思  
っている。

智将 自分より後に出てきたのに、すぐに、自分をこしてし  
まうから尊敬してやる。

T びっくりの中には、尊敬の気持ちもある。

細い先がぐんぐんく伸びて行って赤ちゃんのような手を  
開いて空をつかもうとしている。すごいなあ、て。

T じゃ、最後にもう一つだけききます。

題を見てください。「かぼちやのつるが」となってるで  
しょう。ふつうなら、「かぼちやのつる」という題が多  
いですね。なんで、「かぼちやのつるが」なんでしょう  
紗織 はい上がり、だから、

朝子 「が」は、かぼちやのつるのくせに、という感じで  
人間やったら、そんなことできないのに、まだ細かい  
のに、あんなに大きくなったということのように「が」  
がついてる。

「が」に驚き

優子 すごく大きくなってるから、びっくりしてるけど、か  
ぼちやができるようになったらどれだけ大きいのができる  
かな、て想像している。

T 今、いわったのは、ちよつとちがうかもしれないけど。

朝子がいったのは、「かぼちやのつるが」に驚きがあるみ  
たい。たかが、かぼちやのつるのくせに。

それから、優子さんは次々と大きくなっていく様子を

「かぼちやのつるが…」と想像している。

和樹 「かぼちやのつるが」だと、どんどんどんどん大きく  
なっているから、「が」がつく。

T もういっぺん言って。

和樹 ふつうやったら、つるが短かったら、「かぼちやのつ  
る」て題になるけど、どんどんどんどん大きくなってい  
くから「かぼちやのつるが」になる。

T 「かぼちやのつるが」だと、どんどんどんどん大きくな  
って行く感じがする。

哲也 かぼちやのつるが、というのは、かぼちやのつるが、  
のびていくさかいな、「つる」だけではなんかわからん  
さかいな。

T ここでは、かぼちやのつるが、どうするということ、ぐ  
んぐんのびていくということが言いたいから、「かぼちや  
のつるが」。こう書くと、



智将 「かぼちやのつるが」の「が」は、その伸びている勢いや、強さが表れている。

T うまいこというね。

では、これを朗読で表現してみましよう。

C 朗読練習

政義 朗読

T すごいですね。

勝仁 朗読

公美 朗読

全員 朗読

「みんなの感想」

国寄祐子

私には、小さなかぼちやがうかんできた。赤ちゃんのような手に細いほそいつるで、よわそう。でも歯をくいしばって、もうすぐうすぐと空をめあてに力いっぱい出し切ったのぼっているみたい。

美由紀

はじめも私はこの詩を読んでこう思いました。それは、この詩はのびやかな詩でした。とくにいい所は、「ああ、今空をつかもうとしている」という所で、ぐんぐん上がって原田さんのせいをぬかしていったことが、とってもよかったです。

由美子

かぼちやのつるがはい上がりのたびにぐんぐんのびていくよう。さいしよの目標は、竹のてっぺん。次のもくひようは、屋根の上。次の目標は、すごく大きい空。がんばってのびているかぼちやのつるがうかぶ。

有香

私は、始めのはい上がりが2回つづいているから、始め、とてもがんばりつてのびているような感じがした。竹をしつかりにぎつてのところまで、しつかりにぎつてないと、今までのぼってきたのに、また、のぼらなきゃいけないから、しつきりもつていたと思う。さいごの空をつかもうとしているところで、手を力いっぱいのばしていると思う。

明代

わたしは、「かぼちやのつるが」を読んで、つるもがんばっているのだなあと思った。つるも、空をめざしてがんばろうという気持ちでいっぱいだったと思う。とてもすばらしい話だった。

宏

かぼちやのつるがの詩は、いっしょうけんめいつるが、はい上がっている感じがした。本当に空をつかもうとしている。いっしょうけんめい成長している。

哲也 ぐんぐんのびていくような感じ。

治武 はい上がりのところで、つるが勢いよくのびていくところがうかんできた。

智将 このかぼちやのつるは、がんばりようで、じょうぶと思った。

優子 この詩をよんで、1本のつるがどんどん大きく大きくなっていていっしょうけんめいかなぼちやのつるがうかんできた。

龍法

ぼくは、はいあがり、はい上がりのところで、1回目のはい上がりのところより、2回目のはいあがりのほうが、もっといっしょうけんめいのびていると思った。

勝仁

ぼくは、かぼちやがうかんできた。どでかいかぼちやがうかんできた。はっばとかがちぎれそうにまで大きくなった。

紗織

始めのはい上がりのところで、すごくのびて、するするっと音をさせながら、ぐんぐんとのびていく。